

はぎのだい

令和2年9月18日（金）

学校だより臨時号

津幡町立萩野台小学校 校長 青山 昌美



学校評価の結果・6月の町学力調査の結果（5年生）をお知らせします

◇学校評価（中間）の結果及び分析・今後の方針について

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をありがとうございます。夏休み前の学校評価についてのアンケートへのご協力もありがとうございます。同時期に児童アンケートと教職員アンケートも実施し、それらの結果をもとに学校評価を取りまとめました。

この学校評価は、私たち教職員が自らの教育活動を振り返り、今後更なる改善に向けて取り組むことをねらいとしたものです。全教職員でこの結果を共有して分析し、9月からの方針を固めましたのでお知らせします。

【学校評価（中間）の見方】

どの項目も、「重点目標について講じた具体的な手立てに確実に取り組めたか」という実施状況についての評価と、「その手立てにより、実際に成果が見られたか」という成果についての評価を行いました。そして成果についての達成率をもとに、各項目とも次のような基準で評価しました。

なお、平均値の最高値は「4」であり、平均値 3.0 ならば達成率は 75%となります。

A：平均値 3.5 以上（十分達成している）	B：平均値 3.0 以上（概ね達成している）
C：平均値 2.5 以上（十分でない）	D：平均値 2.5 未満（不十分）

例えば、(1)『根拠を明確にした論理的な表現ができる子』の育成」の場合は、実施状況の評価は次の2点のアンケート結果をもとに行いました。

- ・教職員アンケート「毎日の授業で『根拠に着目させる』『考えを持たせ、表現させる』『考えを表現し合わせ、深めさせる』手立てを1つ以上講じることができた」 →結果 3.1
- ・保護者アンケート「学校（教師）は、分かりやすい授業をしている」 →結果 3.5

成果の評価は、次の3点のアンケート結果の平均値をもとにおこないました。

- ・児童アンケート「毎日の授業で、自分の考えが持っている」 →結果 3.5
 - 「毎日の授業で、自分の考えを発表することはできている」 →結果 3.2
 - 「毎日の授業で、友達と考えを話し合うことは楽しい」 →結果 3.2
- 平均 3.3

重点目標 (1) の評価は、成果の評価が「3.3」なので B 評価（概ね達成している） となります。

学校評価（中間）

	重点目標	評価データ	評価	結果の分析→9月からの方針
1 学 力 向 上	(1) 「 <u>根拠を明確にした論理的な表現ができる子</u> 」の育成	(実施状況) 教職員 3.1 保護者 3.5 (成果) 児童 3.3	B	取組は6月から開始した。取り組んでからの日数が少ないため、教師の実施状況の評価がやや低い。 →引き続き取組を行うとともに、児童が「わかりやすく伝える」ことへの必要感を感じられるよう工夫する。また、取組の状況と児童の様子について、校内研修会で検証する。
	(2) 「 <u>問題に合った答え方ができる子</u> 」の育成	(実施状況) 教職員 3.3 (成果) 児童 3.2	B	筆記問題の答え方の指導はできたが、授業の話し合いの中での指導が難しかった。成果の評価では、A評価の児童が半数近くいる一方で、D評価の児童もおり個人差が大きい。 →筆記問題についての指導では、問題文に線を引くなどさせて問いを理解する力を高める。授業中は、問いに対する正しい答え方のモデルを具体的に示すようにする。

	(3) 基礎基本の定着	(実施状況) 教職員 3.5 保護者 3.6 (成果) 統一テスト正答率 93% 児童 3.3 保護者 3.2	B	前年度より伸びが見られた。しかし、実施状況の評価に比べ、成果の評価が低い。統一テストの結果はA評価だが、家庭学習における成果の評価がやや低い。また、基礎基本の定着については個人差が大きいことが課題である。 → 帯タイムやぐんぐん教室等において個別の支援を手厚く行う。家庭学習で取り組みにくい「誤答の直し」は朝学習等で補う。また、「家庭学習見直し週間」を行い、家庭学習の実態把握と取り組み方の改善に努める。
	(4) ICT 機器等の効果的な活用	(実施状況) 教職員 3.7 (成果) 児童 3.6	A	A評価となり、前年度より大きく伸びた。各教室でPCが利用できるようにし、デジタル教科書等が活用しやすい環境を整備した成果であると考えている。 → ICT 環境の一層の整備を図る。また、ICT 機器の機能について情報交換し、教職員の ICT 機器活用スキルを高める。
	(5) 英語教育の充実 (町内共通)	(実施状況) 教職員 3.3 (成果) 児童 3.1	B	英語の授業中の指示や呼びかけ等で教職員が積極的に英語表現を使う取組を行っているが、取組期間がまだ短い。成果は、今後あらわれると考えている。 → 引き続き、教職員が積極的に英語表現を使い、児童が英語に多く触れることができる授業を行う。
2 豊かな心の育成	(1) 自己有用感の育成	(実施状況) 教職員 3.6 保護者 3.7 (成果) 児童 3.1	B	実施状況の評価に比べ、成果の評価が低い。特に高学年児童の評価が低い。新型コロナウイルスの影響で、行事等で高学年が学校のリーダーとして活躍する場が少なくなっていることも一因であると考えられる。 → 児童の活躍の場を多く設ける。また、友達の良さを見つけ伝える児童同士の相互評価の場面を設定する。引き続き「ほめて育てる」ことを大切に、児童と良い関わりをしていく。
	(2) 社会的生活習慣の定着	(実施状況) 教職員 3.5 (成果) 児童 3.2 保護者 3.3	B	児童・保護者とも「友達と仲良くしている」ことへの評価が高い。一方で「丁寧な言葉遣い」や「あいさつ」に関する評価が低い。挨拶や「ありがとう」を、相手の顔を見てはっきりと言うことを不得手とする児童が多い。また、休み時間等に、相手を傷つけたりからかったりする言葉が見られることがある。 → 2学期も生活目標であいさつと言葉遣いを取り上げ、スモールステップで児童の意識を高めていく。相手を傷つける言動が見られた場合は、見逃さず確実に指導をする。
	(3) 道徳教育の充実	(実施状況) 教職員 3.2 (成果) 児童 3.3	B	担任教師は、各クラスで指導を工夫している。児童については、道徳の授業への向き合い方に個人差があり、自分の思いを表現できていない様子の児童も見られる。 → 引き続き、授業の中で児童一人一人が思いを表出できるような授業づくりや学級作りを目指す。
	(4) 夢や目標を持つ児童の育成	(実施状況) 教職員 3.2 (成果) 児童 3.2	B	前年度より伸びが見られた。日常の中で目標をもち、それを達成する喜びを積み重ねていくことを大切にして取り組んだことによる成果であると考えている。 → 学校生活や行事を行う中で、児童一人一人に自分なりの目標を持たせ、振り返りの場で自分の目標の達成状況を確かめさせる取組を、引き続き行っていく。

	(5) 特別支援教育の 充実	(実施状況) 教職員 3.2 (成果) 教職員 3.3	B	教師の取組は6月から開始された。取り組んでからの日数は短い、教職員がチームとなって支援に当たり、よい変化が見られた児童が増えた。 →引き続き児童の実態を丁寧に観察し、スクールカウンセラーや専門相談を活用しながら、個に合わせた支援を行う。
3 健康的な生活習慣	(1) 健康的な生活習慣の定着	(実施状況) 教職員 3.3 (成果) 児童 3.5 保護者 3.1	B	新型コロナの影響で、歯科指導が実施できなかったことや、給食後の歯みがき指導が徹底できなかったことなどから実施状況の評価が低い。また、1日3回の歯みがきが身につけていない児童もいる。感染症対策については教職員で共通理解し、日常的な指導を行えたため、児童の意識も高まった。 →2学期に各学年の歯科指導を実施する。その指導内容についてお便り等を通じて保護者にも知らせる。また、津幡町のガイドライン等に沿って校内の感染対策についても定期的に見直し、感染症予防に努める。
	(2) 体力向上	(実施状況) 教職員 3.0 保護者 3.3 (成果) 児童 3.5	A	新型コロナの影響で、体力向上の取組が十分にできなかったため、実施状況の評価が低い。しかし、体育好きの児童が多く、成果の評価は高い。体育の授業に対して積極的に取り組む姿が多く見られた。 →「いしかわっ子体力アップ推進事業」を活用した取組を行う。また、児童の柔軟性を高めるため、「萩野っ子ストレッチ（本校オリジナルの体操）」を浸透させる。
4 危機管理	(1) 学校の危機管理能力の向上	(実施状況) 教職員 3.7 保護者 3.7 (成果) 教職員 3.3 児童 3.8	A	高評価である。児童の危ない行動や校内の危ない箇所について教職員で情報共有し、指導に生かした。避難訓練では、学級で事前指導を確実にを行い、訓練に真剣に取り組ませることができた。また、避難訓練等についてHPや学校だよりに掲載するなどして情報発信に努めた。 →引き続き、環境整備、事前指導を確実にを行い事故の未然防止に努める。また、児童の安全に関する情報共有を行い、指導に生かす。様々な場面を想定した避難訓練を行い、安全指導を行う。
5 連携	(1) 効果的・効率的な指導のための家庭・地域との連携	(実施状況) 教職員 2.7 (成果) 保護者 3.7	A	実施状況の評価が低い。学校HPによる発信に関われなかった教職員もいたためだと考えられる。しかし、成果の評価は高かった。学校HPを充実させたことに加え、各種おたよりの発行や連絡帳や電話での日ごろのやりとりを密に行ってきたことなどが奏功したと考えられる。 →引き続き、学校HPをはじめ様々な方法で、児童の学習の様子や教育活動の様子を積極的に発信していく。
6 業務改善	(1) 教職員の働き方改革と業務改善	(実施状況) 教職員 3.1 (成果) 時間外勤務時間(6月について) 前年度比 91%	B	学校の状況が例年と違う(学校休業や夏休みの短縮等)ため、前年度の1学期との単純な比較ができない。しかし、授業日数がほぼ同じ6月について前年度と比較すると、時間外勤務時間が約9%短縮されているため、B評価とした。 →さらに働き方改革を進める。業務量が一部の教職員に集中しないよう、業務量の平準化を図る。

◇6月の町学力調査の結果(5年生)について

今年度の学力調査の実施状況は、次の通りです。

名称	対象学年	教科	実施予定月	実施の有無
全国学力学習状況調査	6年生	国・算	4月	中止
石川県基礎学力調査	4年生	国・算	4月	中止
	6年生	社・理	4月	中止
津幡町学力調査	5年生	国・算・理	4月	国・算のみ6月に実施

上記のように、今年度4月に予定されていた学力調査の実施は、5年生を対象とした津幡町独自の学力調査(国・算)のみとなりました。

この学力調査について、本校児童の5年生の結果は次の通りです。

名称	対象学年	比較対象	国語	算数
津幡町学力調査 対象 5年		町平均と比較して	▲	●
		全国平均と比較して	●	○

☆+11以上 ◎+6~10 ○+0~5 ●-0~5 ▲-6~10 ★-11以下

町平均と比較すると、国語では6~10ポイント、算数では0~5ポイントを下回る結果となりました。(なお、町平均は全国平均をやや上回っています。)

5年生が前年度12月に受けた津幡町学力調査では、町平均と比較して国語も算数も11ポイント以上下回っていました(マークでいうと★)。それを考えると、5年生の学力は上向きになっているといえます。

これは、前年度の各種学力調査の結果から、「本校の児童は記述問題を苦手としている」ということが分かったため、前年度9月から「自分の考えを説明する力」を養うことに力を入れた授業をしてきた成果であると分析しています。

これらを受け、これからも引き続き全学年で「自分の考えを説明する力」を養っていこうと考えています。特に今年度は、「根拠を明確にして自分の考えを説明できる」ということを目指した授業を行っており、今後も継続して取り組んでゆきます。

また、今年度の津幡町学力調査(5年生対象)の結果と前年度の各種学力調査の結果を合わせて分析したところ、各教科では次の点に弱さが見られることが分かりました。

今後の改善策とあわせてお知らせします。

	弱さが見られた点	今後の改善策
国語	段落の役割を理解して文章の内容を的確に読み取ること	説明的文章を扱う単元で、文章全体の組み立て(段落相互の関係)について考える時間を設定する。
算数	量感の捉えや単位換算 例)・教室の面積は50cm ² か50m ² か50km ² か(量感) ・1km ² は何m ² か(単位換算)	日常生活と関連付けた題材や問題を取り上げ、操作活動、体験活動を十分取り入れた授業を行う。 単位換算を扱う授業では、換算の方法を自分なりに説明できるように指導する。
社会	表やグラフなどの資料を複数組み合わせ合わせて考察すること	複数の資料を提示し、資料から読み取ったことを話し合わせる活動を授業に多く取り入れる。
理科	電気、電流についての理解	3年生~6年生に配置されている電気、電流に関する単元において、実験に明確な目的意識を持たせる。また、「予想を立てる→実験する→実験結果を考察する」という学習過程をより丁寧に行う。

学校改善、そして学力向上にむけて、これからも職員一丸となって取り組んで参ります。これからも変わらぬご理解、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。